

toVO トヴェ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 5

No.049 - 100号まで、残り51家族、51ヶ月



049

2011年10月1日放送 残り51家族、51ヶ月

トヴェ



今号（50家族目）のご家族▶

対馬 洋平さん・絵里さん・そらくん

撮影場所▶浅瀬石川(黒石市)

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶洋平さん「よく覚えてますね。弘前公園で仕事をしてて、現場移動しようとダンプに乗ってガチャッてドアを閉めた瞬間に、ぐおんぐおん揺れて、後ろのダンプがおっつけてきてんのかと思ったけど後ろには誰もいないし...（笑）降りてみたら、木もぐおんぐおん揺れてたんだけど、外だから揺れてるだけで、その時はあんまり大ごとの感じがしなかった。事務所から戻って電話がきて、行ったら停電してたから、発電機をつけて、テレビを見たら津波の映像が出てるから本当びっくりした。」

▶絵里さん「私も職場で絶賛営業中で、次の日の仕込みしてたんですよ。揺れ出して、みんなでしゃがんで、お年寄りのお客さんが多いんだけど、揺れに気づいてない人も結構いたんだよね...（笑）だから声かけてしゃがませたり。外に出て～って言うてるのに、まだ買い物続けてる人もいたな（笑）それで全員一旦建物の外に出たんだけど、停電起きてるって知った人が食料買いに次々に来たんだよね。売るものなくなっても人が押し寄せて、すごく大変だったんだけど、今思えばその人たちは賢いなって。」

●その日の夜はどう過ごしましたか？

▶洋平さん「うちは、水道が井戸水だったんで、停電で水が全く止まっちゃって、トイレ流せないから、水をもらいに車でまわってましたね。反射ストーブもちょうど壊れて捨てちゃってて、暖がとれないんで、寝るときに敷ふとんに毛布敷いて、仕事用の防寒具を着て、それで、毛布と掛け布団かけて寝たら、朝、背中にびちょっと汗かいてた（笑）あとは...やっぱり知合いと連絡がとれなくてすごく不安だったんですけど、とりあえず登録だけしてたmixiは、なんとか繋がるってわかって、それでみんなと連絡取り合うことができてる。もう初めてmixiに感謝しましたね（笑）今も普段は全然使わないけど、また何かのときのために登録は消さないでおいてます。」

●震災後、大変だったことは？

▶絵里さん「うちの職場は生ものの扱が多いから、冷蔵庫もショーケースも全滅で大変でしたね。保冷パックで包んで応急処置したり、まだ生きてる冷蔵庫あっても冷気が逃げるから開けるなって。震災後2日くらいは店が休みになって、営業再開したら、ものすごい忙しさに毎日疲れました。他の店はどこもまだ営業してなかったらしくて。保育園のお弁当とか予約の電話もいっぱいきたんだけど、お返事の電話が全然つながらなくて、結局、次の週にやっとつながってから、みんなで電話して謝ってましたね。」

●意識が変わったことはありますか？

▶絵里さん「うーん、友達とこまめに連絡はとるようになったかな。あとはやっぱり、もし、またあぁいうことがあったら、仕事とかすぐほっぽり出して、まず息子のところに行く。」

▶洋平さん「うーん、うまく言えないけど、3/11が近くなったときだけ思い出すんじゃなくて、あのとき色んなところでみんなが結束してたあの感じとか、人のこと思う気持ちを普段から持ち続けていたなって思ってます。そらがでっかくなってこういう話をする時も、きっと自分たちが戦争の話を書くのと同じような感覚で、辛いのはなんとなく感じて、よくわかんないと思うから、震災の状況ってよりは、震災があったことによってこういう団結があったとか、みんなの為にすごいことをやった人がいたとか、そういうところを息子に伝えたい。大変な時こそ人の気持ちをわかって寄り添えるような人になってほしいと思う。」

●ご家族の10年後は？

▶洋平さん「子どもはもう1人いるかなあ（笑）屋上つきのマイホームに住んで...（笑）」

▶絵里さん「子どもには色んな経験をさせたいと思ってます。せっかくお父さんが多趣味だし（笑）私は地元の黒石、というか青森を出たい派だったんですけど、お父さんのおかげで地元いいなあって思えたので、まずは黒石のことは全部経験させたいと思ってます。家族でいろんなイベントとか参加して、楽しむお父さんと子どもを支えていきたいですね。」

【取材後記】お店がない、娯楽がない、活気がない、地元はつまらない。こんな田舎から出ていきたい。特に若い世代はそういう考えを持つ人が多いことでしょう。でもそれはその人たちが気づいていないだけで、洋平さんのような強い地元愛を持つ人がいるということは、tovoのようなプロジェクトが生まれたということは、私たちの地元には、青森には、それだけ魅力あるものや人があるんです。それに気づくきっかけにもtovo plusは成り得ると思っています。（今号No.049の撮影とインタビュー担当者：坂本小雪）

【寄付総額】2011年6月～2016年2月29日まで「¥4,016,100」を、あしなが育英会「あしなが東日本大震災遺児支援募金」へ寄付することができました。ご支援に深く感謝致します。

【定期購読のご協力を!】1年間の定期購読を承ります。1,800円(送料・寄付含)／1年間(12号)です。このフリーペーパーは定期購読の皆様のご支援で発行されております。ご支援の程、宜しくお願ひ致します。ご希望の方は、ウェブショップ (<http://shop.tovo2011.com>) よりお申し込みください。